

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	お客様の立場に立ち信頼され、納得していただける良質な福祉サービスを提供します。地域の方へ、健康・医療・福祉を通じて健康で豊かな生活を支援します。責任と誇りを持ち日々研鑽を重ね活気があり働きがいのある職場をつくることを理念として挙げている。	○ 具体的な方向性を職員とともに確認しながら業務に携わっていく
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、その人にあったサービスの実現、地域とのつながり、職場環境の改善に取り組んでいる。	○ 同上
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域のお店を利用することで、地域貢献(地域への還元)を行っている。氏名を言うだけで注文ができておりまきグループホームという施設が、地域にあるという印象付けは出来ている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物や掃除などで近隣の方と顔を合わす機会も多く、気軽に声をかけて挨拶をしている。花壇の手入れをしていると声をかけていただくこともある	○ 認知症の方にも様々な症状の方がおり、どのように接したら良いのかわからない方も多く、地域の方に家事、炊事などのお手伝いに来ていただけるような調整、環境作りが必要である
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校へ運動会の見学に行かせてもらったり、幼稚園児の訪問をうけたりしている。自治会の役員さんにも、夏祭りなどに来ていただき、様子を知っていただくようにしている。ふれあい喫茶の利用も行っている	○ 地域に向けて介護者教室などの実施も検討して、認知症への理解を促す活動を検討する。幼稚園児との交流の機会を増やしたい

まきグループホーム三階フロア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域への活動に人手を割けない状況が続いている。	○	運営推進会議などで何かお役に立てることがないか確認していく必要がある
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善点や指摘事項は、運営会議で話し合い、スタッフへ展開するようにしている。	○	取り組んでいくことについて評価していき改善するという意識を全職員が持てるようにする
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族の代表や自治会の役員・包括支援センターの職員の方に参加していただき、活動内容を写真を掲示しながら報告している。意見をいただきサービスの向上に努めている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の方などの申請代行や相談などでは、担当ケースワーカーと話しをする機会はあるが、それ以外は連携への取り組みは出来ていない。運営推進会議以外に、介護保険担当者との関わりは少ない。	○	質の向上が図れるように連携を蜜にしていきたいようにする
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所単位での学習の場はない。成年後見は、過去2例ほどあるが、申請から制度の導入までの手続きを担当した者もない	○	勉強会を行い職員の知識の向上に努める
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束ゼロ運動の啓発や研修が実施されている	○	新入職者及び職員の意識向上のために、定期的な研修、勉強会を行ないたい。

まきグループホーム三階フロア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所の相談の段階で、メリット・デメリットを説明している。事故のリスクについても説明している。契約書、重要事項説明書は、事前に読んでいただけるように早めに渡している。契約締結時に、一度に説明や質疑応答のないように配慮している。退所については、状況に応じて話し合いを重ねている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>認知症の方なので、日頃の何気ない表情、発言、行動から、要望や不満を汲み取るようにしている。わずかな変化も記録に詳細に記入し情報の共有に努める。ケアに関わることはサービス担当者会議を通じて、環境改善などは運営会議で議題として話し合っている。家族様へのアンケートを公表している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>季節毎に、便りを発行して郵送したり、掲示したりしている。金銭管理は、毎月、請求・領収証を郵送して、預り金の残金なども添付して報告している。また、家族の状況に合わせた報告を工夫している。</p>	○ ビデオなどで日々の様子を撮り、面会時や家族会などで日常生活の様子を伝えることが出来ることよい。また、家族が来れない方への対応を、今後も試行錯誤していく。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会などで管理者やスタッフと家族だけで集まる機会を作り。事業所や各フロアの現状を伝えたり。家族からの質問や意見などを伺う場を設けている。御意見箱も各フロアに設置しているがなかなか意見を伺えていない</p>	○ フロア毎に利用者の状態に違いもあり、フロア別に意見交換会を行っていき、回答が必要な場合は書面にて行う、ご意見箱の活用がされておらずハガキに変更していく
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>サービス担当者会議や運営会議、各委員会で意見を汲み上げるようにしている。会議には管理者は出席している。運営者には会議録を回覧し意見を伺う、採否が必要な場合はその都度確認している</p>	○ 職員の声を直接運営者が聞くことができるような会議の場の設定が必要である
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>通院介助や行事などに、スタッフを確保出来るように調整しているが、厳しい調整を強いられている。家族が面会に来れない方などは、郵送や電話による連絡を行っている。</p>	○ 人材を確保し柔軟な対応が出来るようにしたい
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人全体の運営の流れによるものや、各個人の勤務希望により困難な状況ではあるが、フロア毎にオープンから勤務してくれているスタッフを一人は配属している</p>	

まきグループホーム三階フロア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の接遇研修や中堅研修などある。その他の事業所ごとに、勉強会や研修もあり自由に参加できるようになっている。法人外の研修では、認知症基礎研修、介護支援専門員の実務研修などであり、特定のスタッフが行くことは出来るが、その他のスタッフが参加できる研修も少ない。	○ OJTとして、実例を基に知識やケアの方法をスタッフ間で学ぶようにしている、経験年数による目標設定や指導マニュアルを作る必要がある。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	デイサービス事業を行っている時は、在宅サービスとの関わりも少しあったが、なくなると関わりがなくなっている。地域福祉や介護サービスのネットワークへ参加出来ていない。交流会などの情報もなかなか入ってこない。	○ 以前は、他の地域のグループホーム連絡会などの集まりに参加していたが、最近は参加出来ていない。地域のニーズを知るためにも、少しずつでも参加していくようにしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者と現場スタッフとの関わりはある、管理者が現場の声を吸いあげ運営者に報告している	○ No16に準ずる
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況を把握する機会が少ない、管理者からの報告となっている	○ 定期的な面談を行っていく、個々については評価を行い意欲の向上に努める
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	フェイスシートに基き傾聴に努め親密な関係作りに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来所された家族様とは積極的に会話の機会を設けている。来所の少ない家族様については折りにふれ電話連絡などによりお話することを心がけている。	○ 行事などの機会を捕らえ来所いただける方向に進めてゆきたい

まきグループホーム三階フロア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体の状態などに応じ訪問看護、訪問リハビリの導入にて行なっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様の意志を尊重した介護に徹している(本人様のペースを尊重している)		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	タクティールケアをフロア目標に掲げており親密な介護、介助に努めている。若い職員は利用者様に調理手順や味付けを教わることも再々あり、賑やかに過ごされている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の喜怒哀楽、様子は来所時に細かくお伝えしている。又、家族様にもご協力を求める事もあり、応じて頂いている。	○	職員間での表現内容の統一を深めてゆき、介護支援経過の記録にて周知徹底してゆきたい。
29	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	踏み込める範囲を見極め、押し付けにならないような橋渡しの役割を担っている	○	家族様の思いを十分に汲み取り相互理解と信頼関係を一層深めてゆきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の自宅まで同行する事もある	○	リアルタイムで希望がかなえられるように体制を整えてゆきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	円滑なコミュニケーションが取れるように仲介役として努めている。孤立した状況にならない様配慮できている。食事時、ゲーム時等の着座位置なども常時、細かく検討している。		

まきグループホーム三階フロア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	管理者が関わりを必要とされる方について、電話連絡や入院先へ伺う事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握には努めているが、推測が多くを占める事は否めない。都度、臨機応変に対応出来ている。	○	職員各々が利用者様の病歴についての知識や趣味、出来られる事の引き出しに努めパーソナルケアを深めてゆきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のフェイスシートなど初期段階での本人、家族からの聞き取りに努め、その情報は職員間で共有できるように記録伝達出来ている。	○	入所直後に十分な時間を取り生活環境、生活歴の聞き取りを行ないたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	マイペースを尊重しており、共有時間の強要や画一的な対応はしていない。	○	職員間での報告・連絡・相談を今以上に活発にしてゆき、お一人お一人の様子や状態の把握を掘り下げてゆきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心にサービス担当者会議にて随時検討の上作成されている。		
37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即し、見直しに努めている	○	職員各々が記録の意味や重要性について意識向上を図れるよう啓発してゆきたい。

まきグループホーム三階フロア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・管理日誌・活動記録・連絡ノート・申し送りノートなどによる情報の共有にて、実践へ反映されている	○	細かな気づきや変化についても記録として残してゆくよう周知徹底してゆきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	将棋ボランティア、歌のボランティアは定期的に来て頂いている。図書館や文化センターの催しにも参加している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入退院時は他のケアマネジャーやサービス事業者との連絡、連携は出来ている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	具体的な事例は無い。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係については家族様が希望される時は受け入れている。2週間に一度の往診が実施されている。		

まきグループホーム三階フロア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>家族様、主治医の方針を周知徹底し状況に応じてぎりぎりの終末期までお世話してゆきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個別に寄り添い話し掛けるなど丁寧な対応に努めている。記録物は施錠して保管している。メモは手帳が支給されており使用後は管理者が回収している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来る限り自己決定していただくようにしている。ご本人の思いを引き出せるように声かけや質問の仕方に工夫している。	○ 常時、ご本人が納得し満足されるよう、希望される事を引き出してゆきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを尊重している。(何事も強制する事は無い)	○ 9名全員の個別希望に添いたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	男性は希望される時に近所の理髪店を利用されている。女性は馴染みの美容院に行かれる事もある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、調理、盛り付け、配膳など全ての場面でお出来になる事にかかわって頂いている。	○ メニューの決定も相談して行いたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人希望により提供出来ている	

まきグループホーム三階フロア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	誘導時の声かけには注意を払い対応出来ている。排泄記録も取れている。排泄困難な方については随時、管理者、主治医へ報告している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は制約があるが時間の許す範囲では希望に添えている。	○	全員の夜間入浴が出来るよう考えたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れる雰囲気作りをしたり、眠れない方へは、飲み物などの提供をしている。落ち着いていただけるように職員が話しを伺ったりし個人個人の状況に合わせている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野の発露を目指して頂いている。出来ていることで、達成感の持てる家事手伝いや協力作業をお願いしている。協力が困難な方には、テレビ、ビデオ、雑誌などを提供し話題作りをしてお話しする機会を持っている。	○	お一人お一人が楽しみと思われる事柄を増やしてゆきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人預り金で個別の買い物もされている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スーパーへの買い物、お地藏様参り、公園への散歩、喫茶店でのコーヒーなどを実施し支援できている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	スーパー銭湯、外食(回転寿司・ファミリーレストラン)海遊館、花鳥園、大阪城の梅園、菖蒲園など四季折々に機会を設けて実施している。	○	家族様の参加をして頂けるような計画立案に取り組みたい。

まきグループホーム三階フロア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時は自由に架けていただいている。家族様へ連絡する時に、電話口まで来ていただき声を聞いていただいたりしている。また、年賀状や暑中見舞いを介助しながら、利用者を書いていただいている。下書きの見本を書く等、工夫して送らせて頂いている。		
64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室で過ごされたり、フロアで他者と談話される方も自由に過ごされている		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げている。研修も実施されている。	○	『拘束』の意味を常に認識した上で、お世話が出来るよう職員の意識向上を図りたい。
	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関施錠は道路に面しており交通量が多いため不可避である。館内の施錠箇所は減らしていつている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロア内において安全配慮は出来ている。居室に居られる時は適宜安全確認を行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状態に応じて物品の移動、保管など臨機応変な対応が出来ている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時マニュアルが作成されており目につきやすい箇所に掲示されている。自主・定期火災訓練を実施できている。薬ボードにより誤飲リスクを回避できている。ひやりはっと、事故報告書にて再発防止の取組みも行なっている。	○	個人個人の小さな変化やリアルタイムの情報の共有を確実なものにして行きたい。

まきグループホーム三階フロア

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に行なっている。緊急時マニュアルは目につきやすい場所に掲示されている。	○	新入職者も含め常に訓練を重ねたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通年定期、自主火災訓練を行っている。運営推進会議などで、自治会の役員様に協力をお願いしている。隣の老人保健施設との協力体制もある。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族様には入居当初より予想されるリスクについて説明している。また、利用者の状態で気付いたことや、変化について現状を詳細に伝えて、共に考え理解を深めていただけるようサービス担当者会議の議事録・介護日誌なども見ていただくようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	連絡ノートや管理日誌などの特記を利用して		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類と効能などが直ぐ判るように、各利用者の個人ファイルの先頭に薬の一覧を綴っている。薬が変われば特記事項で申し送っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事メニューに繊維食品を多く取り入れている。朝夕の体操なども心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、おやつ後、就寝前の口腔ケアは徹底できている。週に一度の歯科往診が実施されており、必要に応じて受診されてる。		

まきグループホーム三階フロア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Dr.管理者の指示、管理栄養士(老健)への相談や助言を受け対応できている。定期的な水分補給や随時摂取が徹底できている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症委員会にての話し合いや取り決めので実行できている。汚物処理・オムツ処理の手順、外来者・職員・外出後の手洗い、うがいの徹底にて予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	用具・布巾についてはハイター消毒を徹底している。食材は毎日の買い物で利用者様と共に新鮮な物を購入している。国産品の購入を基本としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の草花を彩りよく配置している。外掃除は利用者様も一緒にして頂いており、近隣の方と立ち話をされる事もある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事毎の写真の展示・手作りアルバムなど、すぐ手に取れるように出来ている。新聞や雑誌なども自由に見ておられる。季節や室温に適した光量や空調の調節もこまめに行なっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファ、椅子、炬燵の配置をしておりに利用されている。		

まきグループホーム三階フロア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の状況に合わせ家具、作品の持ち込みなどをいただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床時、毎朝の掃除時には必ず換気している。適宜、光量、風量、空調の調節はこまめに行なっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴室・トイレには手摺りが完備されている。個人的には状況に応じ バギー・杖などを使用されている。夜間は状態に合わせてベットをトイレに近く移動するなどしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札など個性に応じて作成している。個人の得意分野の発露を目指して頂いている。園芸・調理などにおける役割をもっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階の中庭では季節の野菜を植えており利用者様と収穫を楽しんでいる。玄関まわりはミニ花壇があり入居者様と手入れをしている。ベランダではプランターを置き苗を植えたりもしている。洗濯物を一緒に干す、取り入れる、たたむなど日課として行なっている。	○	外出出来ない時にはベランダをもっと活用して日光浴の機会を増やしてゆきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

まきグループホーム三階フロア

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)